

中国雲南省ペー族の歌文化

板 垣 俊 一

The Folk Music Culture of Bai People in Yunnan Province, China

Shun'ichi ITAGAKI

1 はじめに

原始・古代の日本列島に、万葉集や常陸国風土記などにわずかな痕跡として残る〈歌垣〉と呼ばれる民衆の歌文化があった。奈良時代には、東国の筑波山の例が知られる程度で、その他の地方ではほとんど行なわれなくなっていたらしいが、男女が恋の歌を掛け合うという和歌の伝統は、万葉集の相聞歌をはじめとして、平安貴族の社交の歌へとその後も確実に受け継がれた。このような古代の歌文化に対する関心から、筆者も現代に至るまで〈歌垣〉と類似の行事が残る中国南部の少数民族の地に心を寄せてきたが、その地に自ら旅立つ勇氣もなくいたずらに年月を過ごしてきた。しかし、数年前に発足したアジア民族文化学会への入会を機に、中国雲南省の少数民族の調査を長年にわたって行ないそれに関する優れた研究成果を世に送ってきた工藤隆氏や岡部隆志氏の案内によって、雲南省におけるペー族（白族）の歌会⁽¹⁾の現場に近年二回ほどふれる機会を得た。2002年8月末から9月始めに訪れた洱源县にある茈碧湖の海灯会における歌会と、2006年8月末に訪れた劍川県石宝山宝相寺境内における歌会である。いずれも行事のあるその日に合わせての訪問で、それぞれ二日間だけの取材だったから、歌掛けする人々の暮らしに関する深い知識もなく、彼らの歌文化のほんの一端にふれた程度に過ぎない。しかも、ここに採り上げる石宝山の歌会については、すでに工藤隆「現地調査報告・中国

雲南省劍川白族の歌垣（1）（2）」（『大東文化大学紀要』No. 35, 37, 1997, 1999）という論文がある。よって屋上屋を重ねる必要もないのだが、日本の俗曲との関係で筆者なりに多少述べてみたいこともあり、工藤氏・岡部氏両先達の驥尾に付してわずかな私見を交え、ペー族の歌文化に関する拙稿をここにものしてみることにする。

なお、漢語で「白族」と書かれるペー族は、人口が約160万人前後で、そのうち134万人が雲南省に住んでいる（郭浄・段玉明・楊福泉主編『雲南少数民族概覧』雲南人民出版社、1999）。さらに雲南省のうちでもその多くは北西部の大理を中心とする大理白族自治州に住んでいて、全部で25の少数民族が暮らす雲南省では彝族の約460万人について多い。また歴史的には、中国の唐・宋代に雲南に建国された南詔（649～902）およびその後の大理国（902～1253）の主要構成民族であり、本来無文字文化であったが、漢民族の文化の影響を強く受け、漢字を利用して自民族の言葉を表記しようとした点など、日本の古代社会と共通する面もある。古くは仏教信仰も盛んであったが、現代まで続く民衆の信仰は、仏教や道教と習合しつつさまざまな神を祀る土俗的な本主信仰である。

（1）日本の古代文献に見られる歌の掛け合いの行事は一般に「歌垣」と呼ばれているが、雲南省のペー族の間に行なわれている同種の行事は、漢語で「歌会」と呼ば

れているため、本稿ではその用語を使用した。また、「対歌」という呼び方もあり、これは実際に歌を掛け合うことを意味する用語として使用したい。

2 石宝山と歌会

劍川県は、雲南省北西部に位置する大理白族自治州の地方行政区の一つであり、大理市の北々西約100kmのところにある。神奈川県より少し狭い面積2,318Km²の土地に、主流をなすペー族のほか漢族・リス族・回族・納西族など約17万人が住んでいる（晋淑蘭責任編輯『雲南省地図冊』中国地図出版社、1999 基本的なデータは以下も同書による。なお面積は2,250km²ともいう）。年平均気温は12.3℃で、夜間は真夏でも寒く感じる日があるとのことである。また、県内の最も低い土地でも海拔2,000メートル程度であり、それ以上高地の山岳地帯では自然条件が厳しく一見して農業には不向きな土地が多い。しかし、この地はかつて茶馬古道と呼ばれたお茶の輸送ルート上にあって交易で栄えたところである。また、これによってインド、チベットとインドシナ半島をつなぐ文化の回廊のようにもなっていた。とりわけ仏教文化の伝播経路であり石窟寺院のあるところとしても知られている。雲南に建国された南詔国の時代の9世紀半ばから次の大理国の時代の12世紀末までの間に築造された石鐘山の石窟である。断崖に聳える奇岩には菩薩・観音・四天王など多くの仏像が彫られ、石鐘寺地区、獅子関地区、沙登箐地区の3箇所に計16の石窟があって、その歴史的・美術的価値により、1961年以来中国の全国重点文物保护单位に指定されている（『南天瑰宝—劍川石鐘山石窟—』雲南美術社、1998）。

かつてこの石鐘山でも歌会が行なわれていたという。しかしそれは、1970年代までのことで、1980年代になると国指定文化財の保護のため、この地の歌会は禁止されたとのことで、今は行なわれていない。歌会が現在まで続けられているのは、この地から自動車でも山道を20分ほど戻ったところにある石宝山地区である。標高は2,300メートル程度と思われる。

毎年農曆（陰暦）7月27日から29日の3日間にかけて行なわれるこの地の歌会は、仏教の行事に合わせて行なわれる民間の行事だが仏教

とは直接関係がない。今回収録した対歌の歌詞中にも、「私は仏様にお詣りに来たのではなく、ただ花を採りに来たのです」（3男大意）といった文句があって、仏教行事における群衆の集いを機会に男女の出会いを求める行事となっている。中国共産党が指導する現代中国では宗教が表向き否定されていて仏教的な信仰はほぼそと民衆の間に伝えられているに過ぎない。そのような背景もあって、この地の歌会は「情人節」（恋人たちの祭り）と呼ばれ、なおさら宗教とは無縁な祭りとなっている。このたび実見した印象でも、寺院参拝を目的に石宝山にやって来る人々はおもに年配の女性たちであり、多くの人々は縁日の露店の賑わいと広場で行なわれる芸能発表を楽しみに来ている。

しかし、現在の状況はそうであるが、果たして歌会は古く遡っても宗教的要素とは無縁だったのだろうか。石宝山には、宝相寺の多くのきらびやかな仏像のほかに、質素な祠の中に山神なども祀られている。また、神木の根もとにも祠があり、さらに巨岩のもとには線香や小柴が供えられている。ペー族は、古来さまざまな神々を祀ってきた。仏教寺院を中心とする石宝山でも、このような自然神に対する信仰を見ることができる。また、石鐘山の場合でも、仏教信仰の下層には民俗的な信仰を見ることができる。石窟には南詔国王の浮き彫りもあって、確かにこの地の仏教遺跡が雲南を支配した地方国家と密接な関係を持っていたことを物語っているが、民衆にとってはまた違った民間信仰的な聖地だった。この地の歌会の由来について、古老が語る次のような伝説がある。

石鐘寺の傍には鐘に似た巨石があるが、これはもともと金鐘だった。あるとき遠くから悪竜が飛来してきてその金鐘に火焰を吐きかけ、金鐘を焼いて石鐘にしてしまった。これによって白族の村には頻繁に災難が起こった。そこで彼らが祀る本主の神の教えによって、沙溪坝子里の阿石波と阿桂妞の二人の恋人と、その他の多くの人々を石宝山に集めて日夜歌会を行なったところ、その歌声は終に悪竜の魔法を消滅させた。しかし阿石波と阿桂妞の二人は疲労のあまり石宝山で死んでしまった。そこで、彼ら

を記念し、併せて悪竜が再来して祟りをしないように、今日まで人々が毎年山に登って対歌するようになったのである。(張文「剣川石宝山歌会白族歌謡調査」、中日白族歌謡文化學術研討会会務組編印『白族歌謡文化學術研討會論文集』2006 所収)

ここには男女の対歌が村の災難を除く効果があるという俗信が語られている。しかしまた、石鐘山石鐘寺の名称の由来になっている釣鐘状の巨岩は、見ようによっては大地から突き出た巨大な男根の形にも見えないだろうか。しかも、これと対比されるように境内にある一つの祠の中には岩に描かれた大きな女性生殖器が祀られていて、子宝を祈る人々の崇拜の対象となっているのである。すなわち「阿央白」と呼ばれる第八の石窟で、剣川県文化館研究員の張文氏によれば、「歌会に参加して対歌を行なうペー族の女性たちは、わざわざここへ来て礼拝祈禱し子宝を求める」のだという(張文「剣川県石宝山歌会白族歌謡調査」、同上)。このことは男女の結びつきを求める歌会の行事が行なわれる背景を説明するための恰好の例のようにも思われる。しかし、この一例をもって歌会の行事全体の民俗的背景を論じるわけにもいかないだろう。ただ言いうことは、ペー族の歌会が土俗信仰を色濃く残す聖地でしばしば行なわれているということである。

なお、蛇足ながら市との関係で言えば、剣川県のペー族の場合でも、今回対歌のなかで「今度は羅馬会でまた会いましょう」といった歌詞を歌っていたから、歌好きの人々は寺社の縁日とは関係ない交易の場でも歌会を行なっていることが知れる。羅馬会は、交易が中心であり、そこでの歌会は行なわれるときもあれば行なわれないときもあるというが、歌のやりとりをする対歌もまた一種の交易と見ることができるだろう。それが市の歌会の存在根拠なのではないだろうか。万葉集巻十二の 2951 番歌や 3101~2 番歌に見られる市と歌垣の密接な関係についても同様に考えられる。また、今回調査した石宝山など寺社の縁日における物売りも交易の一つのありかたとしてみることができるだろう。

3 ペー族対歌の音楽性

3-1 三弦について

中国では各地で様々な三弦が用いられてきたが、王耀華著『中国の三弦とその音楽』(金城厚訳 第一書房 1998)によれば、琵琶と三弦を伴奏にした明朝時代からの代表的な語り物の一種である南方の「弾詞(蘇州弾詞など)」等の三弦

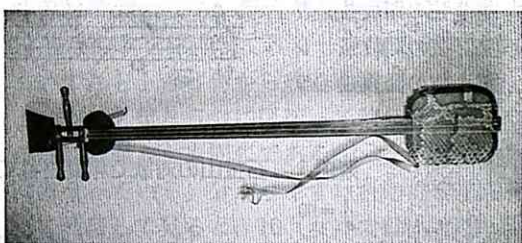


写真1 雲南の古典音楽である洞経音楽に使われる三弦(大理にて)

全長 118 cm 胴は 20 × 17 cm 胴の両面にニシキヘビの皮を張ってある。竿の先がペー族民間の三弦に多く見られる竜の頭ではなく日本の三味線の海老尾に近い。また胴皮にニシキヘビの皮を用いるのは沖縄の三線と同じである。太い糸から細い糸への三本の糸の配列は三味線や三線と同じ。ただし、三本の糸巻きの左右の配置は一定していない。三弦は素人が作製する場合も多く、写真1のように、糸巻きが左に2つ、右に1つと逆になっているものもある。日本の現在の三味線は一般に糸巻きが右2つ左1つになっているが、しかし古く遡ると逆の場合もあって一定したものではなかった。例えば『糸竹初心集』(寛文四年刊)に載る三味線稽古の挿絵では同一場面に師匠と弟子の持つ三味線の糸巻きの数が左右逆に描かれている。



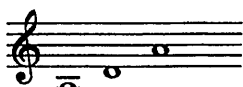
写真2 ペー族の対歌に使われている三弦(宝相寺境内にて)

胴は六角形。皮は片面に張る。ニシキヘビの皮を張る場合もある。下駒は胴皮の中央付近に立てる。

の調弦は、1弦と2弦の間が4度、1弦と3弦が1オクターブという調律をする例が多く見られ、また「その絶対音高は、演唱者の喉によって決める」という。ペー族の場合はどうであろうか。

石宝山における対歌で伴奏していた三弦の音階は次の通りであった。

第3弦の開放弦 ラ
第2弦の開放弦 レ
第1弦の開放弦 ラ



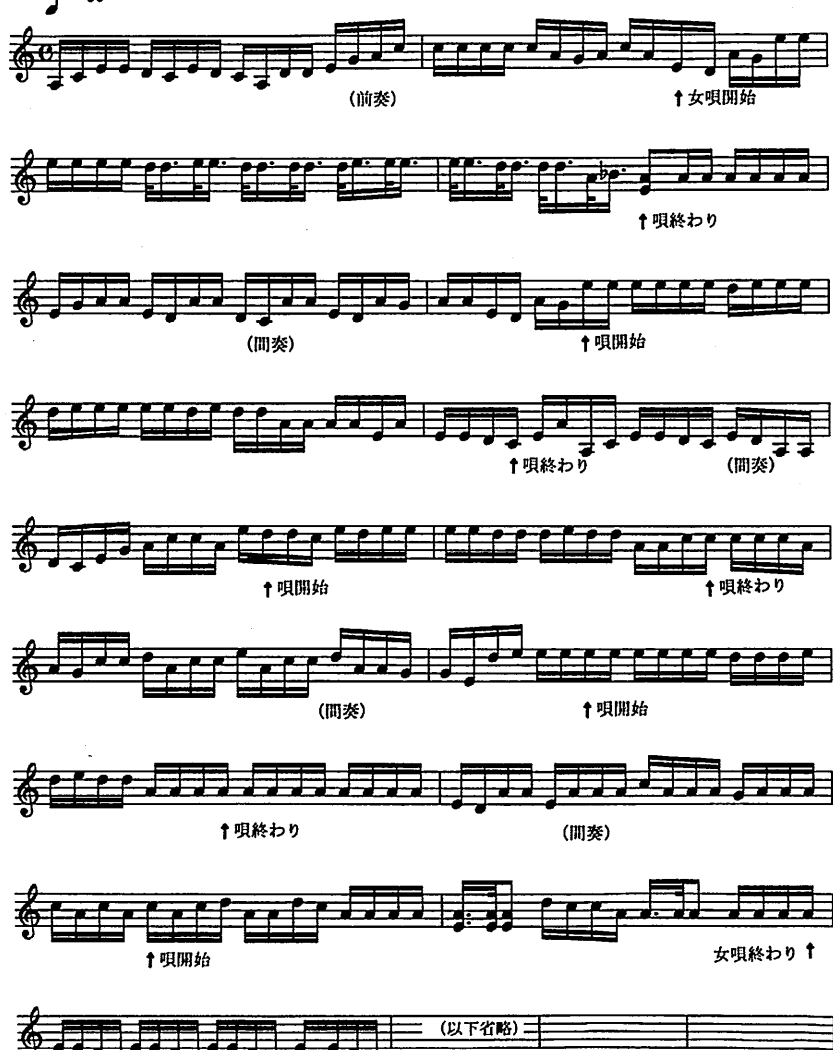
詳しい調査が必要だが、石鐘寺の境内で熟年男性たちが琵琶・二胡・低音の二胡などとともに合奏していた三弦の音階も同様であった。

第1弦と第3弦の開放弦を1オクターブの間隔にして、第2弦の音を第1弦から4度高くし、第3弦を第2弦から5度高いところに合わせる調弦法は、〈本調子〉と呼ばれて、日本の三味線の場合でも基本的な調弦の仕方である——と言うよりも実際はむしろ逆に日本におけるこの調弦法が三味線の渡来とともに大陸から伝来したものだと考えるべきだろう。沖縄の三線の調弦も本調子が大半だという（吉川英史監修『邦

楽譜1 石宝山の対歌で伴奏されていた三弦の旋律

採譜：板垣 由美子

$\text{♩} = 60$



(前奏) ↑女唄開始

↑唄終わり

(間奏) ↑唄開始

↑唄終わり (間奏)

↑唄開始 ↑唄終わり

(間奏) ↑唄開始

↑唄終わり (間奏)

↑唄開始 女唄終わり ↑

(以下省略)

↑男唄開始

楽百科辞典』1984)。近世邦楽に使われるその他の代表的な調弦法、すなわち〈二上り〉や〈三下り〉も、その用語からして〈本調子〉を基準にしての二の糸、三の糸の上げ下げを言っているのだから、〈本調子〉はその字義どおり、もとからあった三味線の基本的調弦法だったと考えてよい。

なお、石鐘寺境内の合奏（彼らの合奏は同一のメロディを異なる楽器で演奏する形式だった）で三味線を担当していた男性に音階のことを尋ねたところ、音の高低は自分で自由に決めればよいという答えだった。そして、その調弦はやはり本調子であった。

また、対歌の伴奏も弾く人によって旋律に違いがあり、「百人百様」である。楽譜1は、今回耳にした黄四代と張福妹の対歌のとき、側に

いた男性が弾いていた伴奏例である。同じような旋律に少しずつ変化をつけて繰り返し弾いてゆく部分が多い単純な構成になっている。これを対歌の場で、アドリブ的に弾いて雰囲気盛り上げるのである。

3-2 音階について

対歌の旋律は1首ごとに定型化している。末尾に掲げた石宝山宝相寺における黄四代と張福妹の対歌例のうち、録音状態が良い10番目と13番目の歌を採譜してみると次のようになる。

いずれも1首8句から成る歌詞を、2/2/1/1/2句と5つに区切って歌っている。この点では兩人とも同じであるが、それぞれ旋律は異なっている。分かりやすい各句の末尾の抑揚に注目して見ると、10（女）では①・③・⑤の各節に、シラーラファの繰り返しがあり、

楽譜2 石宝山で張福妹が歌った対歌の旋律 10（女）

採譜：板垣 由美子

♩ = 60

楽譜3 石宝山で黄四代が歌った対歌の旋律 13 (男)

採譜：板垣 由美子

♩ = 60

②と④が同じ繰り返しとなっている。これに対して13(男)の例では①・②・④・⑤が同じで、③の末尾だけが異なる形になっている。共通点は、③の末尾を⑤の途中で繰り返すことである。また、全体に女性の声が1オクターブほど高いが、1首の一区切りの⑤末尾、ラーファーミレーレーミだけ、男女とも同じ高さになっている。全体の旋律は異なっているのだが、そのような共通性が男女の掛け合いに自然な流れを感じさせるものとなっている。特に、歌を相手に渡すときの末尾が二人とも同じ音程である点には、対歌を続行しようとする男女の心の通い合いが感じられる。1首の末尾は歌詞に関係なく必ずフォーオーファー(ミレーレーミ)という定型で閉じられるのがペー族対歌の形式となっている。

黄四代と張福妹の二人の旋律の違いについては、方言を異にしていることから考えれば、個性の違いの他に地域性もあるかも知れない。旋律の地域性については大きくいって大理地方と劍川地方の違いなどがあるというが、基本的には同一の歌会場で歌う人々の間にはかなり遠方の出身者であっても地域的な差はそれほどないはずである。長年、黄四代の歌友達として対歌を行ってきた李銀淑の場合はどうか。今回、二人の対歌で次のような文句を耳にした。すなわち、「あなたが先に歌ってそのあと私が続いて歌います。私はあなたのメロディに合わせて歌います」という女性の側の文句である。採譜例は省略するが、確認してみると李銀淑の旋律は黄四代(13男)のとはほぼ同じだった。ただし実際には同一人の演唱でも厳密にまったく同

じメロディを繰り返しているわけではない。

次に、使用する音階についてだが、上記の楽譜資料から、彼らは次のような音階を使用していることが分かる。

レ♭ ミ♭ ファ ラ♭ シ♭

これは実音であるが、わかりやすいようにそれぞれ半音下げて、ドから始まるように書き改めてみよう。カッコ内は音階が無い部分である。



これは一般的に中国の伝統的な5音音階と共通するし、また日本的に言うならば、ドから始まる4番目の音と7番目の音が無い、いわゆるヨナ抜き音階でもある。これがペー族の人々にとっても歌をうたうときの最も自然な音階だと考えられる。

ペー族の音階については、大理学院教授の趙懷仁氏も次のような指摘をしている。すなわちペー族歌曲中、喜ばしい内容の曲調にはド・ミ・ソの音階が主要な音として使用され、悲しい内容の曲調にはレ・ミ・ラの音階が主要な音として使用されているという（趙懷仁「論白族民族歌曲調的憂傷色彩」、中日白族歌謡文化學術研討会会務組編印『白族歌謡文化學術研討會論文集』2006）。その二種を合わせるとド・レ・ミ・ソ・ラの5音が使用されていることになり、これも拙稿で検証した上述の基本的な音階と同じことがわかる。

また、三弦に関しても今回採譜した上記の三弦譜（楽譜1）によればファ・シの音がほとんど出てこないことから、やはり歌と同様の音階が使用されているとみてよいだろう。

3-3 ペー族の対歌と日本の俗謡 一 賢女唄

ペー族の対歌は自然の中で声を張り上げるようにして歌う。それは、音楽性よりもまず言葉がはっきりと相手に届かなければならないからである。対歌する男女の距離は、場合によっては十メートル以上も離れている。男女の歌い手は相手の歌意を受けて歌い返す必要がある。音楽性よりも当然ながらまず第一に歌詞が優先さ

れることになる。伴侶を得ることを目的にした芸能以前の素朴で実用的な歌会において、日本の民謡の文句ではないが、声の良いのに惚れたという事例があるかどうかは知らない。三弦の伴奏はなくても構わないけれども、最低限演唱したい歌詞を伝統的な旋律に乗せる必要はあるだろう。なぜなら、その旋律こそ対歌という伝統的な文化の存在基盤を保証するものだからである。また、演唱と歌詞との関係を考えた場合、古くからの伝承歌であってもただ歌詞だけの暗唱よりかは、旋律に合わせて歌うことで自然に文句が思い出されるということもある。同様にそのつと作られる即興的な歌詞であっても、旋律が歌詞の紡ぎ出しを助けてくれることもあると考えられる。なぜなら、対歌の歌い手は先人のさまざまな対歌の演唱を聞いているのであり、それは〈音楽的経験〉として旋律とともに思い出されるはずだからである。

伴侶を得るための実用的な対歌の場合は、旋律の単純な繰り返しという形式によって必要最低限の音楽的要素が与えられる。そのため演唱者はその単純な旋律の繰り返しをほとんど意識せず、ひたすら歌うべき文句を案ずることに集中できるのである。

このように、単純な旋律の繰り返しによって長々と歌を演唱する形式は、日本古代の歌垣でも同じであったかも知れないが、残念ながらそれを知る資料はない。すでに芸能化したペー族の対歌に見られる三弦を伴った歌の在り方と形式を同じくする芸能が日本にはないのだろうか。ペー族の対歌の次の二点に注目して日本の芸能の中から近似するものを考えてみたい。

①同じ旋律の繰り返しによって長編の歌詞を歌うこと

②三弦を伴奏に用いること

この条件に当てはまり、かつ野外で歌われる音曲で、三味線が渡来した以後のものとしては口説しかない。同じ旋律を繰り返して長編の歌をうたう形式の歌謡を日本では〈くどき〉節、すなわち口説という。おもに盆踊りで歌われ、古くは十七世紀に京都で流行した〈踊り口説〉まで遡ることができる。歌われた場はペー族歌謡と同じく野外であるが、しかし男女が歌い交わすものではなく、ある叙事的内容を定まった

歌詞で一人が歌い続けるもので、その点では対歌と異なる。ところがペー族対歌のメロディが、対歌だけでなく一人で演唱する物語的歌謡のメロディにも用いられることが今回の取材で確認できた。「対歌と同じメロディが他の歌に使われることもあるか」という我々の同行メンバーであった西条勉氏の質問に対する、ペー族音楽の研究者段伶氏(大理学院民族文化研究所研究員)の答えである。いずれ実際に確認する作業が必要ではあるが、ペー族出身者である段伶氏の回答は信頼できるものである。なお日本の口説は、対歌のように当人たちが恋愛の過程を歌うものではなく、最後は心中に終わる男女の物語を第三者の語り手が歌うもので、そのようないわゆる心中物が多かった。

口説の歌詞はもと七五調であったが、元禄十年前後から〈あびや節〉という七七調の踊り口説が現われる。その流れは十八世紀になると西日本を中心とする兵庫口説という歌謡の流行を生み出して行った(藤田徳太郎『近代歌謡の研究』1986 復刻版所収「歌音頭とあびや節」)が、近世におけるこのような新しい歌謡は、直接間接に三味線音楽として生み出されたものである。この口説節のさらなる流れは、越後の替女たちが幕末に流行らせたヤンレ節に連なっている⁽²⁾。兵庫口説の旋律は確認できないが、このヤンレ節は近代にいたるまで越後の替女たちが伝承してきた歌謡である。

7 7 7 5 の音を繰り返す点に注目すれば確かに日本の近世歌謡の都々逸⁽³⁾に共通するが、ペー族の対歌を聞きながら、私が頭に思い描いていたのは越後の替女たちが歌う歌謡だった。口説に似て、もう少し一区切りが長く、かつ七五調⁽⁴⁾でうたう歌謡に祭文松坂がある。替女はその演唱における一区切りを「ひと流し」といい、三句から六句ぐらいのまとまりで、間に三味線の間奏を入れ、同様の旋律を繰り返して古い説経節の物語などをうたっていた。形式上は口説よりもいっそう対歌の音楽形式に近い。

替女は3～5人で組になって旅回りしたから、祭文松坂や口説の歌い方は、一人が通して歌うのではなく「ひと流し」ずつ二人の替女が交互に歌ったともいわれる。例えば、

ただ情けなや 葛の葉は
夫にわかれ 子に別れ
もとの信太へ 帰らんと
心の内では 思えども(葛の葉子別れ)

を一区切りとして三味線の間奏を入れ、さらに7 5・7 5・7 5・7 5と繰り返し、同様に演唱してゆく。これが段物とも呼ばれる祭文松坂の演唱法である。歌唱中にも三味線の伴奏を入れ、定型の旋律を繰り返して長編の歌をうたってゆく。形式から見ればペー族の対歌と極めて似ているのではないだろうか。

ヤンレ口説、また祭文松坂の調弦は〈二上り〉や〈三下り〉ではあるが、三味線を伴奏楽器として長編歌謡を歌うという形式はペー族の民間芸人による対歌の演唱と基本的に同じだと言える。日本の場合は三味線という渡来楽器によって作り出された歌謡であることを考えれば、民族楽器として盛んに演奏されてきたペー族の三弦音楽と似た形式の音楽が日本に生まれたのも偶然ではないだろう。ペー族の場合は日本と逆に男女の対歌が先にあって、その後で三弦が付けられたものではあるが、しかし歌と三弦は同じ音楽的風土から生まれた一体のものとなっている。

(2) 拙稿「新潟県に於ける明治の唄本(二) — 兵庫口説との比較について —」(『新潟の生活文化』第5号、1998.07)

(3) 甲斐勝二「白族の七七五調と日本の都々逸の七七五調との相関性について」(中日白族歌謡文化学術研究会会務組編印『白族歌謡文化学術研討会論文集』2006所収)

(4) ペー族の七五調については、巫師の降霊に唱えられる語りの例が報告されている。大理近くの村の70歳ぐらいの男性巫師が忘我状態となって語り始めるペー語の言葉が七五調であったという。(菅原壽清「先祖と語る人々 — 大理白族の巫師」、『アジア民族文化研究』No.2, 2003.03)

4 ペー族対歌の文芸性と日本の文芸

ペー族の対歌は完全な定型詩による掛け合いである。1首は、いずれも前半と後半の2段からなり、前半部・後半部とも語数は7 7 7 5の

繰り返しになっていて、全体は4句・4句の計8句から成り立っている。しかも、本稿掲載の対歌例におけるペー語原音の国際音声記号によって確認できるように、漢詩と同様の規則的な脚韻を持つ。段伶氏によれば、2段8句型式の歌は、原則的に1・2・4・6・8句に韻をふみ、3・5・7句には押韻しないという（段伶「白曲曲詞音韻格律」、中日白族歌謡文化学術研討会会務組編『白族歌謡文化学術研討会論文集』2006 所収）。ちなみに今回の対歌例では、全29首のうちこの格律に完全に一致するものが10首、また奇数句の押韻しない原則には当てはまらないが押韻すべき箇所には押韻している例を合わせると17首になる。男女二人の間にはほとんど差がない。すべて即興で歌わなければならない場面において、原則との一致をこれだけ見せていることには感心させられる。さすがは芸人と呼ばれる人たちである。

歌詞資料の採集例は、このように半ば芸謡化した対歌である。しかし、歌い手はプロではなく対歌愛好者であり、対歌を楽しむこと自体を、あるいはまた自らの歌自慢を目的にしている人々である。また、歌詞が決まっているわけではなく、その場の具体的な状況を歌詞にとりいれながら、即興的に歌を続けてゆく技術は、もともと恋の相手を得ることを目的とした素朴な対歌以来の伝統であると考えられる。

ペー族にはまた一方で文芸として完成された伝統詩歌も存する。拙論でしばしば引用した『石宝山伝説白曲集錦』の中で編者の張文氏は、いわば古典文学となったペー族の伝統詩歌がどのようにして生まれたかを次のように説明する。

対歌では即興による創作的な演唱が要求される。一問一答する間に停滞することができない。優れた歌い手同士は何日何夜うたい合っても勝負がつかない。多くの著名な歌謡はその対歌の中で生み出されるのである。それは演唱されながら伝播し、時を経て無数の歌い手たちによって加工修改され、ついには伝統的な名歌となる。石宝山の歌会は、白族歌謡が生まれる揺り籠であると同時に、歌詞が磨きをかけられながら発信される基地のようなものである。

半ば芸能化しているとはいえ、人々の具体的

な対歌は多様な条件の中で多様な表現によって行なわれる。日本の連句文芸を例に出すのは必ずしもそぐわないが、連句はその場かぎりの一回的な文芸世界として成立し、二度と同じものができないように、対歌の場合もその場の一回かぎりの臨機応変に行なわれる掛け合いとしてのみ成立する。その点では日本の連句文芸と同じであるが、我々の文字社会の文芸と違うのは、ペー族のその場かぎりの対歌には後でなにも記録が残らないという点である。これを採集し文字記号化する我々の行為はペー族歌謡にとって本来無縁の世界である。彼らの歌の伝統は音声の記憶となって伝承されるのみなのである。

ところで、ペー族の歌掛けを見て認識を新たにすることは、男女の恋歌が衆人環視の中で公然と歌われていることである。歌詞の採集例に、「このことはこっそりとあなたにしか言いません。あなたも他人に言うてはいけません。もし他人がそんなことを聞いたら嫌な気分になるでしょうから」（11 男大意）という句がある。そこにも注記したように歌詞だけ見れば二人の男女の秘密として歌われているが、しかし彼らの回りには一緒に歌会の場にやってきた友人をはじめ多くの人々がいて、それを聞いているのである。しかも、歌の流れからみればここは回りの人々に対する公開を前提とした秘密となっている。つまり、男が年齢の異なる二人の女性を比べて「私の本音を打ち明けましょう。本当は若い妹のあなたが好きです」と歌う内容が誰にも言うてはいけない秘密になっているのであり、比べられている年配の女性（李銀淑）も実はそばで聞いているわけで、その歌詞は歌い手を取り巻いている周囲の人々の笑いを誘うために歌われているのである。このことは、逆に周囲の人々の歌い手への作用として考えると、周りの人々に後押しされるようにして歌い手たちが対歌を続けていることを意味する。つまりそれはまた、恋する男女を演じるという役割に立つということでもある。

ペー族には実際の恋愛に発展する真剣な男女の対歌も残っている（——あるいは残っていたといった方が正確かもしれないが）。それと同時にこのような歌巧者による半ば芸謡化した対歌も行なわれている。筆者が推測するに、後者

は前者からの連続的な発展段階ではなく、これら二つの様態はかなり古くから共存していたのではないと思う。事を日本古代（古代ヤマトというべきか）の万葉の世界にとってもそれは考えられ得ることである。歌会に集う若者たちは、自分自身が真剣な対歌をする前に歌巧者たちの対歌を学ぶ機会があったと考えられるからである。歌巧者の回りには、対歌が始まると大勢の人々が集まってくる。ペー族の歌会を取材すると、歌会は自分自身が歌を掛け合うためだけでなく、他人の恋歌を鑑賞するためでもあることに気付く。そうした対歌では歌い手たちが恋する男女を演じるであろうことが容易に想像できよう。

今回の調査では、対歌を行なった黄四代、李銀淑、張福妹の男女三人を含むペー族の対歌愛好者の人々が宝相寺境内にある食堂で一緒に食事をする場面に会った。長年、歌会の調査に参加してこられた寧波大学の張正軍教授は、対歌中にはしばしば「お腹がすいたから食事にしませんか」といった歌詞があらわれるが、対歌を行なう者同士がこのように実際に食事をしている場面を見るのは初めてだと言われた。彼らはもちろん若い男女のように伴侶を求めるためではなく対歌を楽しむためにやってきた歌巧者たちであるが、歌詞の中には虚実ないまぜになった内容があることを示す一例でもあるだろう。

万葉集の恋歌では、例えば次の歌のように、娘の母がしばしば二人の恋の障害として詠まれている。

たらちねの母に障らばいたづらに
汝も我も事はなるべし（巻十一・2517）

これに対してペー族の対歌では、相手の夫や妻が恋の障害として詠まれている。とはいってもそれはある程度年をとった者同士の対歌の例である。ここでも既婚者の歌垣といえは良く知られた次の万葉歌が思い合わされるだろう。

鶯の住む 筑波の山の 裳羽服津の その
津の上に 率ひて 娘子壮士の 行き集ひ
かがふかがひに 人妻に 我も交らむ 我
が妻に 人も言問へ この山を うしはく
神の 昔より 禁めぬわざぞ 今日のみは
めぐしもな見そ 事もとがむな

（巻九・1759 番）

この歌によれば、古代の歌垣には既婚者も参加して恋の歌を交わすことが公然とできたとはいいが、まさにそのことがペー族の場合は実際に今行なわれているのである。万葉歌ではこれが昔から神の許したことだと歌われている。もし実際にそうした男女が歌の掛け合いを行なった場合を考えてみるならば、その表現中に相手の妻や夫を二人の障害として詠むことが十分考えられよう。しかし、万葉集にそうした例はあまり残されていない。巻一・21の歌や、

おほろかに我し思はば人妻にありといふ

妹に恋ひつつあらめや（巻一二・2909）

などと言った歌にかろうじてその表現の形を想像することはできるだろう。おそらく、人妻を詠むこうした歌の表現は、歌垣におけるある程度年配者たちの歌の掛け合いの伝統に由来するものと思われる。

万葉の歌にはっきりと残されている恋の障害は人目であり、娘の母である。いずれにせよ万葉の場合もペー族の対歌の場合も恋歌の表現にとってある障害となるものを詠むという形式の共通性は興味深い。万葉の場合のように母であれば、ほとんどの人に共通する存在であるが、配偶者であれば多分に不確実性のある存在であるから、そこには相手の心を探るための駆け引きが生まれやすい。今回の採集例でも21（男）の歌詞に「あなたが人妻だったら困ります」といった句がある。それと逆に女性の歌い手からは相手の妻に関する話題が出されていないのだが⁽⁵⁾、しかしこの例では男性の妻の代わりとなる障害者がいる。すなわち男性の女友達であり、歌に登場する女性の「姉」である。具体的にはその場にいる李銀淑さんなのだが、女の歌い手は姉が好きか私が好きかと問い詰めることで、男の気持ちを確かめて行く形をとっている。対歌を行なう多様な条件の中には、このように三角関係を前提とする場合もあることを教えてくれる例と言えるだろう。

なお、古代ヤマトの男女の歌掛けについては、男の歌に対する返歌が続けられなくなれば女は相手に従わなければならないのだと聞いてきた人も多いだろう。しかし、それは実際には確かめることのできない古代の習俗だった。かろう

じて後世の民俗事例に次のような秋田の〈かけ唄〉の例を知りうる程度である。

(男) さても美しく あのさくら花
ならば一枝折てみたや

(女) 折りに来たとして 折られぬわたし
わしも主ある妻じゃもの

(男) たとえ主ある花にもしよが
風が吹いたら何とする

(女) 風は毎日吹いてもいよが
固く柴垣身をつつむ

(男) 風というやつ大樹も倒す
まして柴垣何のその

(女) とうとあなたに言い負かされて
固い私も承知する

(中仙町の民謡・にがた節『中仙町史』1989 文化編より)

ちなみに工藤隆・岡部隆志著『中国少数民族歌垣調査全記録 1998』(大修館書店 2000)では、ジンポー族の対歌の例として、負けたら相手の意志に従って結婚しなければならなかった風習が明確に聞き取り調査されている。

今回のペー族対歌の例では、歌を続けられなくなった女性が逃げ出すことで終わりとなった。もちろん遊戯的な対歌であって直接的な男女関係に結び付くものではなかったが、対歌では一般に男は相手を歌い負かそうと努め、女はまたそれに屈しないように歌い返す。それが雲南の少数民族における歌掛けの有りようでもあるらしい。今回の例によれば、始まりは男女ともに突然理想的な相手に巡り合ったことを歌い、次に二人が一緒になる場合の障害を歌い、女は男の心に誠意があるか無いかを問い詰めてゆく。すなわち女がなじり、男が言い訳を続ける。途中でほとんど別れ話になるが、男の説得によって女も思いとどまる。しかしまた女の疑念が晴れず、とうとう「やっぱり、私がいくら言っても、あなたとお姉さんとは似合いのカップルなのです」(28 女)という捨てゼリフを吐いて去る、という展開になっている。つまりこの対歌は、山で出会った男女が第一印象で互いに好ましく思った相手と歌を掛け合うことで次第に愛情を深め、またその愛情が持続すべきものであるかどうかを確かめ合う行為となっている。もちろん、わずかの間でも歌を掛け合う

程度の仲が成立しなければ、そもそも対歌は成り立たない。

(5) 2002年8月末に訪問した洱源县茈碧湖の海灯会における歌会でも、お互いの配偶者をめぐって歌詞を交わす対歌の例があった(工藤隆「中国雲南省白族歌垣調査資料」、『アジア民族文化研究』No.2, 2003.3)。

5 今回の対歌の採集例

◇録音機器

録音はポータブルMDディスクによった。

◇場所と情況

剣川県石宝山宝相寺境内の建物群は山の中腹の断崖の下に位置している。また、そこへ至るには下の道路から二、三百段の階段をのぼらなければならない。一番奥の建物である大殿の前の屋外ベンチに、左から、三弦を引く男性、歌い手の男性、歌い手の女性、男性の歌友達の女性が並んで腰を掛けている(写真4)。また周囲を、我々数人の日本人調査者のほかに民族衣装を着た年配の婦人たちをはじめ多くの人々が取り巻いている。対歌の掛け合いは三弦の伴奏付きであった。

◇日時

2006年8月21日 現地時間午後4時半過ぎ
(天気晴れ)

◇歌い手

男性の名前は黄四代。沙溪黄花坪村から来た56歳の人である。相手の女性は沙溪石竜村から来た張福妹という34歳の人。彼女も、黄四代さんの歌の友達としてこの日やってきた李銀淑さんと一緒に行動していた。男性の対歌中に彼女の夫のことが話題になっているが、既婚か未婚かは不明。(李銀淑さんの年齢は不明であるが、すでに結婚した娘がいるというから40~50歳ぐらいと推定される。) また、男性の黄四代は茈碧湖の海灯会にも出掛けて行って良く歌っているらしく、工藤隆・岡部隆志著『中国少数民族歌垣調査全記録 1998』(P.105)などにも記載されている。

なおこの三人は、張文・陳瑞鴻主編『石宝山伝統白曲集錦』(雲南民族出版社、2005) 末尾「知名芸人小伝及歌手簡介」に載る剣川県の著名な歌い手たちである。その説明を次に引用してお

こう。これも中国語であるが、筆者の意識で記す。

黄四代

1950年2月生、沙溪黄花坪村の人。叙事長歌（本子曲）芸人。雲南省大理州曲芸家協会、劍川本子曲協会会員。2002年5月、省文化庁・省民委によって「雲南省民間音楽師」の称号を与えられた。彼は小さい頃から本子曲を演唱することが好きだった。かつて広く師を求めて芸を学んだ。青年時代には「出門調」「月里桂花」などの伝統曲の優れた演唱を行なった。彼の声は良くとおろ、音色も豊かである。演唱のときは声の良さに加えて情調も豊かなので人に感銘を与える力があり、群衆にとっても歓迎され、いつも白族の村に招待されて本子曲を歌っている。彼がひとたび歌をうたいにやって来るやいなや人々は駆け回って知らせ合う。遠路を惜しまず彼の演唱を見に来るのである。彼はまた即興で対唱することも得意で、口から出す言葉がそのまま歌となり、その才能は人並み以上に優れていて、石宝山歌会の対歌大会および州の三月街民歌演唱大会で何回も一等賞を獲得している。民間歌手たちは彼と対唱することを名誉と考えていて、彼を「歌王」と尊称し、みんなが師と仰いでいる。1986年には、雲南省歌手代表団（7人）の一人として招待され、甘肅省の「花儿賽歌会」に参加した。その演唱作品は中央テレビ局および省テレビ局が放映した特集番組に多く収録されているし、また「中国曲芸音楽集」の雲南の巻にも収録されている。また、彼が参加した「十二月調」「牽心繩」等のVCDデスク（雲南民族映像出版社正式出版）に収録するための撮影にも参加している。

李銀淑

東嶺河南村の女性。有名な歌い手（知名歌手）で、石宝山歌会ではたびたび一等賞を獲得している。

張福妹

沙溪石竜村の女性。有名な歌い手（知名歌手）で、大理州の三月街民歌大会および石宝山歌会で多くの賞を獲得している。

なお、ペー語には標準語がなくすべて方言であり⁽⁶⁾、二人もそれぞれの村のペー語で歌っ

ているらしく、黄四代さんは張福妹さんの方言が聞き取りにくいと不満をもらしていた。石宝山の歌会には、「雲南の西北三州八県の白族」等の人々が集まる（張文・陳瑞鴻主編『石宝山伝統白曲集錦』雲南民族出版社、2005）と言われるし、また古代ヤマトの歌垣もかなり広範囲から人々が集まったと言われているが、このことは相手の方言が理解できるという条件がなければ、そもそも歌の掛け合いが成立しないことを意味している。見逃しかねない事実だが、歌垣を考える場合参考にすべきことだろう。

◇歌い手の人間関係

黄四代さんと李銀淑さんは、いわば歌友達であり、恋の歌を交わし合う関係である。また、兩人の子どもたちが結婚しているから姻戚どうしでもある。これに加えて張福妹さんと李銀淑さんとは姉妹の関係（実際は違うらしいが）であることを前提に歌掛けが進行する。つまり、男一人、女二人の三角関係である。

◇対歌の総時間

16時30分頃から16時55分頃までの約26分間。1首あたりの演唱時間は三弦の間奏を含めて1分弱である。

◇歌詞の翻訳

筆者の帰国後、現場での対歌の進行に合わせて同時通訳してくれた劍川県文化館の張文氏に現地で録音した音声資料を送り、歌唱者によるペー語の国際音声記号化と原音からの中国語訳を依頼した。また、現地での張文氏の同時通訳を同時にまた寧波大学の張正軍教授が日本語に通訳してくれたので、各歌にはそれを参考に日本語の大意を付けた。この大意についても張文氏に依頼して改めて整理してもらったが、その際の中国語文は省略してある。

◇対歌のはじまり

21日の14時35分頃、我々調査者が宝相寺境内にある食堂で遅い昼食をとっていたところへ、歌の好きなペー族の人たちもまた食事に来て、我々に歓迎の意を込めて対歌を披露してくれた。このとき対歌を実演したのは、黄四代さんとその歌友達の李銀淑さんだった。また、歌はうたわなかったが張福妹さんも一緒だった。（対歌実演の設定はあるいは同行メンバーの劍川県文化館職員の配慮かも知れない。）

その後、彼らは食事を終えて境内へ移動したらしい。2時間後、そこで歌の掛け合いが始まった。はじめは黄四代さんと李銀淑さんが掛け合いをしていたが、途中で張福妹さんが李銀淑さんに替わって黄四代さんを相手に歌い始めた。歌の掛け合いの間中、三人はずっとベンチに並んで腰掛けていた。この情況が歌詞における、男一人、女二人の三角関係の前提となっている。

工藤隆氏が述べているように自然発生的な対歌は始まりから終わりまでの全体を記録することは困難だが、このように歌巧者による例では開始と終了が明確に記録できる。その点でこの採取例は貴重だといえるのではないだろうか。

なお張文氏は、この対歌は比較的若い中年の歌い手の歌詞によるものだと解説している。

(6) ペー族の歌謡研究者である大理学院研究員の段伶氏は、筆者との談話のなかで、ペー語には地域によって多様な方言があり、それらをペー語として音韻学的に一括して論じることにはできないといった。そして、人間の言葉というのは方言として存在するのが最も自然な在り方なのだ、と主張した。筆者はその言葉に感銘を受けた。

付記 本稿を成すにあたっては次の方々のご協力を得ました。

剣川県文化館の張文氏 寧波大学の張正軍教授 大東文化大学の工藤隆教授 共立女子短期大学の岡部隆志教授 長安観光商事株式会社の楊麗栄氏 板垣由美子氏
記して感謝申し上げます。



写真3 剣川石宝山宝相寺入口

(坂道を登った上に境内がある)



写真4 剣川石宝山宝相寺境内の対歌

(左から黄四代、張福妹、李銀淑)



剣川県石宝山宝相寺における民間芸人による対歌例

※ペー語による歌唱者の歌詞の国際音声記号化および中国語訳は剣川県文化館の張文氏による。
 ※[大意]は、後日張文氏から付けてもらった中国語文を、対歌当日の張正軍氏による同時通訳を参考に編者が意識したものである。注記も編者が付けた。
 ※男＝黄四代 女＝張福妹

(国際音声記号)

(中国語訳)

- 1 (男) tɕɛ⁴² tɕhi⁴⁴ tɕɛ⁴² pia⁴⁴ xo⁵⁵ lɯ³³ tsi³³,
 no³¹ a⁵⁵ ma⁴⁴ ɕɛ⁴⁴ ɲu³¹ ɲu⁵⁵ su³³,
 no³¹ a⁵⁵ ma⁴⁴ ɕɛ⁴⁴ tsɛ̃⁴⁴ ɲu⁵⁵ ɲua⁴²,
 ɕi⁵⁵ tsã⁵⁵ xa⁴⁴ ta⁴² lu³³.
 tu²¹ ma⁵⁵ xu⁴⁴ li⁵⁵ tɕhi⁴⁴ tsɛ̃²¹ pã⁴²,
 tsi³³ pa⁴⁴ pɛ̃⁴² li⁵⁵ tɕhi⁴⁴ tsɛ̃²¹ xu⁴⁴,
 ɲo³¹ ɲio⁴⁴ lu³¹ tshɛ̃⁵⁵ ka³¹ lɯ⁵⁵ ɲy⁵⁵,
 no³¹ tɕhɛ̃⁵⁵ tu⁴⁴ tso⁴² mu³³.

十七十八花骨朵，
 哪天才能摘到手，
 哪天才能成婚配，
 忐忑心里愁。
 黑发气成白头发，
 白牙气成黑乎乎，
 我把这话告诉你，
 是否听清楚。

[大意] あなたは咲いたばかりの小さな一輪の花です。いつになったら私の花になってくれますか。私にはそれがとても気がかりです。

- 2 (女) ku³¹ ue⁵⁵ fy⁵⁵ la³¹ ɕã³³ tɕhɯ³³ xo⁴⁴,
 piɛ⁴⁴ na⁵⁵ kuɛ̃⁴⁴ sɛ̃⁵⁵ kuɛ̃⁴⁴ ɕo³⁵ mo³³,
 ku³³ ɲi²¹ se³¹ ɲi²¹ ɲu³⁵ ta⁴⁴ tshã⁵⁵,
 xuɛ̃⁵⁵ lu⁵⁵ mu⁵⁵ tɔ̃³³ mo³³.
 ɕi³¹ xuã⁵⁵ tshã⁵⁵ tsi⁵⁵ ko⁵⁵ ɲo³¹ tshã⁵⁵,
 ɲã⁵⁵ kɔ̃³³ ɲi²¹ mɛ̃⁵⁵ tshã⁵⁵ ka³⁵ tio³³,
 tɕa⁴² xo⁴⁴ no³³ li⁵⁵ mo³³ ɕi²¹ la⁴²,
 ɲo³¹ tshu³³ tu⁴⁴ ɲu⁵⁵ ko³³.

各位父老众乡亲，
 耍山玩得开不开心，
 男女老少来对歌，
 欢乐到万分。
 高高兴兴来对唱，
 唱上几调多欢心，
 对调何必找别人，
 阿妹把哥等。

[大意] 若い人も老人もみな石宝山に来て歌をうたうことが好きです。ここへ来て歌をうたうなら、ほかの相手を探す必要はありません。ただ私にだけ歌いかけて下さい。

- 3 (男) nu⁵⁵ ko³³ ɲo³¹ tsũ⁴⁴ kuɛ̃⁴⁴ sɛ̃⁵⁵ pio³³,
 ɲo³¹ tsũ⁴⁴ tshɛ̃³¹ na⁵⁵ xo⁵⁵ tsi³³ to³³,
 ɲo³¹ ɲu³⁵ tshɛ̃³¹ na⁵⁵ xo⁵⁵ hu³¹ ko⁵⁵,

不是拜佛来朝山，
 我为采花到这边，
 有心采你花这枝，

ŋɛ⁴⁴ xa⁴⁴ ta⁴² nu⁵⁵ no³³.
 tshɛ³¹ xo⁵⁵ jō³³ tshɛ³¹ po⁴² tã⁵⁵ xo⁵⁵,
 ka³⁵ jĩ⁴⁴ ka³⁵ ɕɛ⁴⁴ li⁵⁵ le³¹ jō³³,
 ke⁵⁵ jĩ⁴⁴ tshɛ³¹ tu⁴⁴ lũ⁵⁵ xo⁵⁵ tsi⁵⁵,
 tshẽ³¹ li⁵⁵ tshẽ³¹ a³¹ tho³³.

深爱在心头。
 采花要采牡丹花，
 历尽千辛也心甘，
 今天采得花这朵，
 不睡也欢心。

[大意] 石宝山では歌の掛け合いがあります。また寺院の参拝もあります。私は仏様にお詣りに来たのではなく、ただ花を採りに来たのです。花を採るならきれいな牡丹の花が欲しいです。どんな苦労を重ねても私は最もきれいな花を採ろうと思います。いくつも山を越えて今日やっとあなたのような花を採ることができました。今夜はとても眠れません。

(注) お詣りではなく花を採りに来たと言ったとき、周りの人々から笑い声がおこった。
 また、「牡丹の花」と言っているが、このとき石宝山にそれが咲いていたわけではない。対歌の世界の用語である。

4 (女) po⁴² ta⁵⁵ xo⁵⁵ khu⁵⁵ tsw³¹ tu²¹ no³³,
 no³¹ jĩ⁵⁵ ɲo³¹ tshu³³ ɕĩ⁵⁵ a³¹ kho³³,
 ta⁴² jĩ⁵⁵ tua⁴² li⁵⁵ tshu³³ ɲa³³ no³¹,
 ɲo⁵⁵ jĩ²¹ khu⁵⁵ lũ⁵⁵ pho³³.
 pũ³¹ le⁵⁵ ko⁵⁵ lõ³³ ɕio³¹ lu³³ tshã⁵⁵,
 ɲo³¹ le³¹ kẽ⁵⁵ lã⁵⁵ jĩ²¹ xo³¹ lõ³³,
 tsi³¹ jia⁵⁵ tsw³³ lia⁴² no³³ ɕĩ⁵⁵ tsi⁵⁵,
 lõ³¹ jĩ⁴⁴ ɲo³¹ li⁵⁵ jō⁴⁴.

牡丹花开在枝头，
 你心我心是一颗，
 行或不行都找你，
 找你心热呼。
 本想和你好好唱，
 又怕惹祸事非多，
 只要真心来相爱，
 您愿我也愿。

[大意] 私は恋の相手を探してもなくあなたを見付けました。あなたのような人がいいです。あなたとならばとても良く歌えると思います。でも、あなたと歌を交わした後で、人にあれこれ言われるのが怖いのです。もし、あなたに真心があれば、私は喜んでついて行きます。

5 (男) po⁴² tã⁵⁵ xo⁵⁵ lu³¹ to³³,
 khu⁵⁵ mɛ⁵⁵ lõ³¹ khu⁵⁵ ɕu³³ pẽ²¹ nō³³,
 a³¹ ko³³ ɲo³¹ tsw⁴⁴ ŋɛ⁴⁴ tshɛ³¹ xo³³,
 xuã⁵⁵ mu⁴⁴ yu³³ tshy³¹ mo³³.
 tshɛ³¹ tō³³ to³³ tsi⁵⁵ ye³¹ to³³ sē⁵⁵,
 tshɛ³¹ ta³⁵ to³³ tsi⁵⁵ lu³¹ to³³ xu³³,
 nã⁵⁵ kō³³ jĩ²¹ mɛ⁵⁵ ta⁴⁴ ɲw⁵⁵ sē⁴²,
 kō³³ jĩ²¹ to³¹ ko⁵⁵ jiō³³.

牡丹花开鲜，
 开呀开在泉水边，
 阿哥我是采花匠，
 采花乐心间。
 采这朵呀那朵艳，
 采那朵呀这朵鲜，
 你们二人跟我去，
 两个都喜欢。

[大意] 石宝山にはきれいな花がたくさん咲いています。私の本心を言いましょう。この花を採ろうかと思ったら、別の花がもっと美しく見えます。本当のところ、私はあなたがた二人のどちらも好きです。

- 6 (女) ɲo³¹ sua⁴⁴ lū⁵⁵ vɣ⁵⁵ tso⁴² tɕh⁵⁵ ko³³,
 kho³¹ tsi⁵⁵ kō³¹ jī²¹ lɛ³⁵ sō³³ xō³³,
 ji⁵⁵ tsi⁵⁵ kō³¹ kho⁵⁵ li⁵⁵ ji⁴² ta⁴²,
 kho³¹ tsi⁵⁵ ko³¹ jī³³ sō³³ no³³ ɕu³³,
 ɲo³¹ jō⁴¹ lu³¹ tshē⁵⁵ sua⁴⁴ lū⁵⁵ vɣ⁵⁵,
 tsu⁴⁴ tɕū³¹ lū⁵⁵ ɕi⁵⁵ lō³³.
 说与阿哥你细听,
 花采两朵怎能行,
 衣服可以穿二件,
 情侣怎可找两人。
 我把这话告诉你,
 你要牢记心。

[大意] 二つの花はどちらもきれいだと思います。でも、あなたは結局その中の一つを選ばなければなりません。この花もあの花も採るというようなことをしてはいけません。

(注) 二つの花…ひとりは今歌っている張福妹さん、もう一人は黄四代さんと歌友達である李銀淑さんをさす。李さんはこのとき張さんの傍に腰掛けている。

* 例外的に、この箇所だけは6句のみで歌っている。

- 7 (男) tɕhē⁵⁵ tso⁴² tsu⁴⁴ tɕū³¹ ɲu⁵⁵ ɕi⁵⁵ lō³³,
 lū⁵⁵ vā⁴⁴ lu³¹ tshē⁵⁵ li⁵⁵ lɛ³¹ tso³³,
 lā⁵⁵ kō³³ jī²¹ to³¹ ko⁵⁵ xē⁵⁵ tɕhō⁵⁵,
 tsō⁵⁵ ɕi⁵⁵ xa⁴⁴ na⁵⁵ no³³.
 tɕi⁴⁴ sē⁵⁵ kō³³ to³³ tshɛ³¹ tsē²¹ tua⁴²,
 ɲo³¹ tsē²¹ khy⁵⁵ tsō⁵⁵ ɕi⁵⁵ lā⁵⁵ lō³³,
 lū⁵⁵ kō³³ ɲo³¹ tsu⁴⁴ ɲo³¹ ɕi³¹ xuā⁵⁵,
 pe⁴⁴ la⁴² thui⁵⁵ thui⁵⁵ jo³³.
 你说牢牢记在心,
 说的道理的确真,
 可惜两个都漂亮,
 羡慕到万分。
 既然两朵采不成,
 岂不让人白欢心,
 阿哥两人都喜欢,
 穷追紧紧跟。

[大意] 採ることができるのはただ一つの花だというけれども、あなたがた二人は比べれば比べるほどどちらも本当にきれいです。二人とも私を嬉しくさせてくれます。あなたがたが私を見て逃げようとしても、追いかけて行ってきつと追いつくでしょう。

- 8 (女) tsu⁴⁴ tɕɛ²¹ a³¹ ko³³ tso⁴² tɕh⁵⁵ ko³³,
 lū⁵⁵ vā⁴² lu³¹ tshē⁵⁵ li⁵⁵ lɛ³¹ tso³³,
 lū⁵⁵ vā⁴² lu³¹ tshē⁵⁵ li⁵⁵ lɛ³¹ tsē⁵⁵,
 uē³¹ ɲa⁵⁵ ɕi⁵⁵ tsi³³ kho³³.
 sū⁵⁵ tshɛ⁵⁵ tshu³³ na⁵⁵ tū³¹ ka⁴⁴ tɕhō⁵⁵,
 tɕhū²¹ ji⁵⁵ to⁵⁵ lā⁵⁵ lō³³ ja³⁵ mō³³,
 sū⁵⁵ tshɛ⁵⁵ li⁵⁵ tɕhō⁵⁵ tɕhū⁴² ji⁵⁵ tɕhō⁵⁵,
 to⁵⁵ lā⁵⁵ no³³ ja³⁵ mo³³.
 阿哥有情真有情,
 你讲此话的确真,
 你讲这句合情理,
 温暖我的心。
 身材就数你英俊,
 情义无价重千斤,
 身材也好情意好,
 的确胜别人。

[大意] お兄さん、あなたの言葉は人情と道理にかなっています。あなたはハンサムで才能も愛情もあります。あなたのような人はほかにいません。

(注) お兄さん…歌の中の恋人の呼称。

- 9 (男) tɕhē⁵⁵ sua⁴⁴ to⁵⁵ ɲa⁵⁵ lō³³ ja³⁵ mo³³,
 jē³³ ɕi⁵⁵ nu⁵⁵ ta⁵⁵ to⁴² nu⁵⁵ tō³³,
 你说无人把我超,
 可惜你姐岁数大,

lō³³ pi³¹ nu⁵⁵ ta⁵⁵ jī⁴⁴ sua⁴⁴ se³¹,
 xuē⁵⁵ lu⁵⁵ yu³³ tshy³¹ mo³³.
 pi³³ tci⁵⁵ pi³¹ tā⁴² na⁵⁵ kō³³ jī²¹,
 lu⁵⁵ ta⁵⁵ tci³³ mu⁵⁵ ci vo⁴² xu³³,
 ke⁵⁵ jī⁴⁴ jā⁵⁵ sā⁴⁴ jui⁴⁴ pe⁴⁴ sa⁵⁵ tci³¹,
 sua⁴⁴ tse²¹ su⁴⁴ ne³⁵ mo³³.

你比你姐要年轻,
 叫人心喜欢。
 比来比去你两个,
 大姐稳重话又少,
 今天相逢在一起,
 真叫人为难。

[大意] いろいろ比較してみると、あなたの方が若いです。今日、私たちは偶然に出会いました。どちらを選んだらいいか、私は難しい選択を迫られています。

10 (女) ɲo³¹ sua⁴⁴ nu⁵⁵ ɲy⁵⁵ ɲw⁵⁵ a³¹ ko³³,
 sā⁵⁵ ko²¹ tshu³³ jō³³ tsē⁵⁵ ci⁵⁵ kho³³,
 ɲw⁵⁵ ta⁵⁵ tci³³ na⁵⁵ tchū⁴² jī⁵⁵ tchō⁵⁵,
 to⁵⁵ na⁵⁵ lō³³ ja³⁵ mo³³.
 ɲw⁵⁵ ta⁵⁵ tci³³ na⁵⁵ phe⁴⁴ sā⁵⁵ tci³¹,
 tso⁴² kua⁴⁴ to⁵⁵ na⁵⁵ no³³ ja³⁵ mo³³,
 ɲo³¹ jō⁴² lu³¹ tshē⁵⁵ ka³¹ lā⁵⁵ ɲy⁵⁵,
 ɲo³¹ sua⁴⁴ xo⁵⁵ tso⁴² mō³³.

开口说与阿哥听,
 相爱专一情要真,
 你对大姐有情意,
 你两情深深。
 大姐与你俩相配,
 无人再比你俩亲,
 我把实话对你讲,
 说不说合心?

[大意] いろいろ考えましたが、人は誰か一人だけを愛さなければなりません。この人もあの人もというわけにはいきません。私は分かりました。あなたは実は心の中でやっぱり私のお姉さんのことを思っているのでしょうか。違いますか?

11 (男) ɲo³¹ sua⁴⁴ lu⁵⁵ ɲy⁵⁵ se³¹ jō⁴⁴ thi³³,
 ɲε⁴⁴ tsi⁵⁵ ɲo³¹ ɲε⁴⁴ mu⁵⁵ jō³³ thi³³,
 ɲo³¹ jō⁴² tsē⁵⁵ tō²¹ sua⁴⁴ lū⁵⁵ y⁵⁵,
 ɲua⁴⁴ lō³³ mia⁴⁴ sua⁴⁴ tchi³³.
 tci³¹ tchi³³ jī²¹ kē⁵⁵ ja³⁵ ci³¹ xuā⁵⁵,
 tsē⁵⁵ ci⁵⁵ sā⁵⁵ ko⁴² mu⁵⁵ tu³¹ ɲε⁴⁴,
 ci⁵⁵ kā⁵⁵ vo⁴² a³¹ mia⁴⁴ tchē⁵⁵,
 sua⁴⁴ li⁵⁵ ja³⁵ sua⁴⁴ tchi³³.

开口说与阿妹听,
 我爱你呀情意深,
 我把实话告诉你,
 莫讲给别人。
 说给人家不高兴,
 真心相爱才是真,
 莫听别人讲闲话,
 不可说真情。

[大意] 私の本音を打ち明けます。若い妹のあなたが好きです。でも、このことはこっそりとあなたにしか言いません。あなたも他人に言うてはいけません。もし他人がそんなことを聞いたら嫌な気分になるでしょうから。本当に愛し合うならばお互い真心をもって愛し合いましょう。

(注) こっそりとあなたにしか…公然の秘密となっている。たとえば真剣な求愛の歌掛けの場合でも周囲に人がいるわけで、歌詞の上での秘密は実際の秘密とはならない。ここでも周囲の人々の笑いが起きている。

なお、「他人」は、万葉集では「人目」に当たる。

12 (女) no³¹ tã³¹ lu³¹ tshẽ⁵⁵ li⁵⁵ tsi³⁵ tso³³,
 tso⁴² kua⁴⁴ to⁵⁵ nã⁵⁵ lõ³³ jĩ³⁵ mo³³,
 na⁵⁵ sã⁵⁵ ko²¹ tshu⁵⁵ lu³¹ ma⁴⁴ la⁴²,
 tɕɛ²¹ ji³¹ tso⁴² kua⁴⁴ xu³³.
 sũ⁵⁵ tshẽ⁵⁵ tshu³³ na⁵⁵ kō³³ jĩ²¹ tchō⁵⁵,
 tɕɛ²¹ ji³¹ to⁵⁵ na⁵⁵ lõ³³ ja³⁵ mō³³,
 ke⁵⁵ jĩ³³ kō³³ jĩ²¹ jui⁴⁴ sã⁵⁵ to⁵⁵,
 pe⁴⁴ li⁵⁵ pe⁴⁴ sɛ³¹ tho³³.

你说这话句句真,
 大姐与你心合心,
 你们相爱这么久,
 情意的确深。
 身材无人可匹配,
 情意怎比你们深,
 今日二人喜相遇,
 舍不得离分。

[大意] あなたの言葉はとても良く聞こえます。でも、口では私を愛していると言っていますが、実はまだ私のお姉さんに気があるのでしょうか。私はあなたがた二人がずっと前からすでに愛し合っていることを知っています。あなたがたの関係を知っている人は他にもいますよ。

(注) 実際に二人は長年の歌友達であった。

13 (男) tchẽ⁵⁵ sua⁴⁴ pe⁴⁴ khe⁵⁵ pe⁴⁴ sɛ³¹ tho³³,
 me³³ la⁴² ɲa⁵⁵ ta⁴⁴ lũ⁵⁵ sɛ⁴² sy³³,
 lã⁵⁵ ty⁵⁵ ke³⁵ ta⁴⁴ thuẽ⁵⁵ tsi³³ lɛ²¹,
 me³³ li⁵⁵ jã⁵⁵ khu³³ ko⁴⁴.
 tsha⁵⁵ tshu⁵⁵ la⁴² tsi⁵⁵ ta⁴⁴ na⁵⁵ sɛ⁴²,
 li⁵⁵ tso⁴² no³¹ kẽ⁵⁵ na⁵⁵ xo³¹ no³³,
 ɲa⁵⁵ thi³¹ ta⁴⁴ lũ⁵⁵ sɛ⁴² cã⁵⁵ lɛ²¹,
 ky⁴² ta⁴⁴ na⁵⁵ lõ⁴⁴ a³¹ pio³³.

听说舍不得离分,
 天黑只好把你跟,
 你家住在不远处,
 迟点也动身。
 唱完调子跟你去,
 或许你怕家里人,
 只搭你去闲一会,
 不是住拢要成亲。

[大意] あなたは私から離れてはいけません。よし、ではもう遅くなりましたから、あなたについてあなたの家へ行くことにしましょう。いいえ、私はただあなたの家を見に行くだけです。あなたと一緒に住むわけではないのですから緊張しないで下さい。

14 (女) ta⁴⁴ ɲu⁵⁵ sɛ⁴² li⁵⁵ ɲo³¹ lɛ³¹ jō³³,
 jẽ⁴⁴ ɕi⁵⁵ ɲa⁵⁵ kẽ⁵⁵ na⁵⁵ sɛ³¹ mo³³,
 yu⁵⁵ tshu⁵⁵ nu⁵⁵ ɲy⁵⁵ tɕi⁵⁵ ɕu³³ li⁵⁵,
 ɲu⁵⁵ sɛ⁴² no³¹ ta⁴⁴ mō³³.
 na⁵⁵ ky⁴² a⁵⁵ ta⁴⁴ sy⁴⁴ vɛ³¹ sɛ⁵⁵,
 na⁵⁵ ɲɛ²¹ fã⁵⁵ kuẽ³¹ no³³ mɛ⁴² ju³³,
 lia⁴² tsu⁴⁴ ɲa⁵⁵ sɛ⁴² no³³ ɕi⁵⁵ vo⁴²,
 no³¹ sã³³ ɲa⁵⁵ sɛ⁴² mu³³.

你跟我去我欢迎,
 让人起疑有原因,
 曾经喊你多少遍,
 就是不起身。
 你们就在寺里住,
 同吃同住同欢心,
 分明对我说假话,
 莫再欺骗人。

[大意] 私は知っています。実はあなたがた二人は、昨日も一緒にご飯を食べたり、歌の掛け合いをしたりしていたでしょう。私について家まで来るというのは本当は嘘でしょう。

(注) ふたりは昨日も…ここでも取り囲んでいる周囲の見物人から笑い声がおこる。先に説明したように、歌詞の中の黄・李・張という三人の当事者たちは、事実とし

て実際にさっきまで同じテーブルを囲んで食事をしていたのであり、昨日も一緒に歌ったりご飯を食べたりしていた、という歌詞が、虚と実のない交ぜになった歌詞だったからである。

- 15 (男) tshẽ⁵⁵ sua⁴⁴ ɲw⁵⁵ sẽ⁴² ta⁴⁴ a³¹ mu³³,
 tci²¹ ɕɛ⁴⁴ xẽ⁵⁵ miẽ⁴² ɲo³¹ tshẽ⁴⁴ tshy³¹ mu³³,
 mǎ⁵⁵ lui³¹ sɛ⁵⁵ ja⁴² ku²¹ tshẽ⁵⁵ la⁴²,
 mẽ⁴² li⁵⁵ nǎ⁵⁵ mẽ⁴² tu⁴⁴.
 tciǎ³¹ tshō⁵⁵ sua⁴⁴ tshō⁵⁵ lɛ³¹ tsi⁵⁵ ɕǎ⁵⁵,
 tci²¹ ɕɛ⁴⁴ ɲw⁵⁵ pẽ⁴⁴ li⁵⁵ ja³⁵ ju⁴⁴,
 ke⁵⁵ ɕɛ⁴⁴ ɲo³¹ ɲɛ²¹ na⁵⁵ ty⁵⁵ tsi⁵⁵,
 ɲo³¹ ka³⁵ pa⁴⁴ ka³⁵ pa⁴⁴ ju⁴⁴.

听说不想把我跟,
 昨夜我无处栖身,
 旅社床位全卖光,
 买主是你们。
 好话说尽是白讲,
 昨晚饿饭头发昏,
 今天我到你家去,
 大碗大碗吞。

[大意] 私はあなたに本当のことを言いましょう。昨夜はどこにも泊まる場所がなかったのです。歌会の行事に大勢の人々がやって来たので、宿泊券がすべて売り切れたのです。口でどんなに上手く言ってもだめです。昨日、私はあなたを見かけましたよ。それなのに、ご飯も一緒に食べてくれず、私を誘いもしなかったではありませんか。

- 16 (女) lu³¹ tshẽ⁵⁵ tsi³³ li⁵⁵ tshẽ⁵⁵ ɕo³¹ lu³³,
 ke⁵⁵ ɕɛ⁴⁴ ta⁴⁴ ɲw⁵⁵ sẽ⁴² jō⁴⁴ mu³³,
 tshǎ⁵⁵ la⁴² pɛ²¹ tsi⁵⁵ ta⁴⁴ ɲw⁵⁵ sẽ⁴²,
 xǎ⁵⁵ no³¹ jō⁴⁴ tso⁴² mǔ³³.
 xǎ⁵⁵ no³¹ tsw⁴⁴ ɕi⁵⁵ tso⁴² mo³³ ɕi⁵⁵,
 ɲo³¹ xǎ⁵⁵ ɲw⁵⁵ ko³³ thō⁴² ji⁵⁵ mu³³,
 tsha⁵⁵ la⁴² pɛ²¹ tsi⁵⁵ ta⁴⁴ ɲw⁵⁵ sẽ⁴²,
 xa⁵⁵ no³¹ jō⁴⁴ tso⁴² mu³³.

你说此话真动听,
 今天是否把我跟,
 唱唱调子跟我去,
 看你真不真。
 看你真情或假意,
 看你假心或真心,
 唱完调子跟我去,
 看你动身不动身。

[大意] 分かりました。いいですよ。それならば私と一緒に私の家へ行きましょう。今この歌の掛け合いが終わったらきつとついて来て下さるでしょうね。あなたが本当に私について来たいのかどうか、これから試してみます。それによって真心があるかどうか見ることにします。

- 17 (男) kuǎ³³ si⁵⁵ ɲo³¹ ta⁴⁴ lǔ⁵⁵ sẽ⁴² pio³³,
 ɲo⁵⁵ tɕa⁴² tse⁴⁴ tsw⁴⁴ ɲo⁵⁵ tɕa⁴² xo³³,
 kuǎ³³ si⁵⁵ ɲo³¹ ji²¹ ta⁴⁴ hu⁵⁵ sẽ⁴²,
 ɲo⁵⁵ tɕa⁴² ji²¹ ɲɛ²¹ tshy³¹ mo³³.
 nu⁵⁵ ta⁵⁵ tci³³ li⁵⁵ ta⁴⁴ jǎ⁵⁵ sẽ⁴²,
 xǎ⁵⁵ no³¹ tǎ⁵⁵ jũ⁴⁴ tshw⁵⁵ ta³⁵ mo³³,
 vǎ⁵⁵ ji³⁵ ɲo³¹ ta⁴⁴ nu⁵⁵ sẽ⁴² tsi⁵⁵,
 mu⁵⁵ tɕa⁴² li⁵⁵ ji³⁵ mo³³.

不是独自把你跟,
 还有同伙结伴行,
 光我一人跟你去,
 同伴无处安身。
 你大姐也一同去,
 答不答应说一声,
 如我一人跟着你,
 她孤单又伤心。

[大意] 私はすぐにでも行きたいのですが、友達がいます。本当のことを言いましょう。
私の友達というのはあなたのお姉さんです。お姉さんも私と一緒にいきますがいいですか。

- 18 (女) lu³¹ tshē⁵⁵ tsi³³ li⁵⁵ tchē⁵⁵ ɕo³¹ lu³³,
no³¹ ta⁴⁴ ŋw⁵⁵ sē⁴² ɲo³¹ jō⁴⁴ mu³³,
nu⁵⁵ tɕa⁴² jĩ²¹ li⁵⁵ ta⁴⁴ nu⁵⁵ sē⁴²,
mu⁵⁵ tu³¹ tho⁴² ji⁵⁵ lu³³.
tu⁴² tã⁵⁵ jĩ²¹ tsw⁴⁴ tsi⁵⁵ kɛ²¹ tchē⁵⁵,
ɲo³¹ jō⁴⁴ ka³⁵ jĩ²¹ no³¹ se³⁵ mu³³,
jō³³ sua⁴⁴ ja³⁵ tɕa⁴⁴ ka³⁵ jĩ²¹ tsi⁵⁵,
ɲo³¹ tsi⁵⁵ ɕi³¹ xuã⁵⁵ mu³³.

你说这话真好听，
你搭我去可不行，
情人与你一同去，
我才能同意。
单独跟我是非生，
要去一定结伴行，
如若不带几人去，
我怎会高兴。

[大意] それは勿論です。もしもあなたが一人で私について来たら私は許しません。あなたの恋人も必ず一緒に連れてゆきましょう。いいえ、それどころかもっと大勢の友達を連れてきてください。そのほうが私は嬉しく思います。

- 19 (男) ta⁴² ta⁴² nu⁵⁵ tua⁴² xo⁵⁵ tsi³³ to³³,
na⁵⁵ tɕy⁵⁵ pe⁴⁴ tsē²¹ sē⁵⁵ tso⁴² pio³³,
vã⁵⁵ ji³⁵ ka³⁵ jĩ²¹ ta⁴⁴ lũ⁵⁵ sē⁴²,
na⁵⁵ tɕy⁵⁵ tshē³³ tshy³¹ mo³³.
li⁵⁵ tso⁴² me⁴⁴ la⁴² ky³⁵ ta⁴⁴ ɕã⁵⁵,
li⁵⁵ tso⁴² no³¹ le³¹ ta⁴⁴ ŋw⁵⁵ no³³,
vã⁵⁵ ji³⁵ no³¹ ta⁴⁴ ŋw⁵⁵ no³³ ɲɛ²¹,
tɕã⁵⁵ tɕã⁵⁵ xo⁵⁵ mu⁵⁵ no³³.

开口说与花骨朵，
你家是不是朝西走，
万一几人跟你去，
睡处有没有？
时候不早在此闲，
或是你干脆跟我走，
跟我一同回家去，
恰好刚刚合。

[大意] でも、私が大勢の人を誘っていったとき、もしあなたの家で寝る場所がなかったらどうしますか。いっそのこと私の家へ来てはどうでしょうか。私の家だったら充分もてなすことができますから。

- 20 (女) lu³¹ tshē⁵⁵ sua⁴⁴ xo⁵⁵ ŋw⁵⁵ ji⁴⁴ no³³,
nu⁵⁵ ɕi⁵⁵ ɲo⁵⁵ ɕi⁵⁵ tshu³³ a³¹ kho³³,
tɕi²¹ ɕē³³ no³³ sua⁴⁴ ta³³ ŋw⁵⁵ sē⁴²,
xã⁵⁵ mō³³ jō⁴⁴ tso⁴² jō⁴⁴.
ta⁵⁵ tɕi³³ le³¹ tsw³³ pe⁴⁴ mu⁵⁵ ɕi⁵⁵,
no³¹ tsw³³ pe⁴⁴ tsɛ³¹ mũ⁵⁵ pi⁵⁵ no³³,
ɲo³¹ jō⁴² lu³¹ tshē⁵⁵ ka³¹ nu⁵⁵ ɲy⁵⁵,
no³¹ piē⁴⁴ nu⁵⁵ ɕi⁵⁵ kho³³.

这话说合我的意，
我俩同是一颗心，
昨天你说跟我去，
还问她行不行。
大姐她在中间走，
你在一旁紧紧跟，
我把这话告诉你，
问问你的心。

[大意] それはなかなか良い話です。私たちは気が合っていますね。でも、あなたがた二人と一緒に私の家へ来るというのですから、さあ行きましょうよ。お姉さんを真ん中にして歩いて行きましょう。

21 (男) ta³³ nu⁵⁵ sē⁴² tsi⁵⁵ ɲo³¹ ja³⁵ jō⁴⁴,
 ɲo³¹ lē³¹ kē⁵⁵ nu⁵⁵ po⁵⁵ jī²¹ no³³,
 nu⁵⁵ ko³³ ɲo³¹ tsu⁴⁴ ɕi⁵⁵ lē³¹ tsē⁵⁵,
 kē⁵⁵ lō³¹ kã³¹ nu⁵⁵ ko³³.
 va⁵⁵ ji³⁵ ɲo³¹ ta³³ nu⁵⁵ sē⁴² tsi⁵⁵,
 nu⁵⁵ po⁵⁵ jī²¹ tē⁴⁴ ɲo³¹ no³¹ kē⁵⁵ mo³³,
 tshã⁵⁵ la⁴² ka³⁵ tshē⁵⁵ jã⁵⁵ pe⁴⁴ ke⁵⁵,
 na⁵⁵ sã⁵⁵ tē⁴⁴ li⁵⁵ ja³⁵ mo³³.

跟你去呀可不行，
 怕你丈夫守家门，
 阿哥心软又老实，
 怕你欺骗人。
 万一我跟你回去，
 你丈夫打我是非生，
 唱唱调子各走各，
 以免打架闹纠纷。

[大意] 本当に私を誘うのですか。それならば実は私は少し怖いのです。あなたが人妻だったら困ります。もし、あなたのご主人になぐられたりしたら大変です。

22 (女) tshũ⁵⁵ tu⁴⁴ no³¹ sua⁴⁴ ɲε⁴⁴ nu⁵⁵ no³³,
 ɲo³¹ sua⁴⁴ nu⁵⁵ no³³ ɲo³¹ ja³⁵ jō³³,
 ɲo³¹ lē³¹ thi³¹ tsi⁵⁵ sē³¹ no³¹ kē³¹,
 tso⁴² kua⁴⁴ tsi⁵⁵ va³⁵ jō³³.
 ɲw⁵⁵ ko³³ no³¹ jō⁴⁴ li⁵⁵ tca³¹ ɲua⁵⁵,
 jō³³ thi³³ ɲo³¹ jō⁴⁴ ɲo⁵⁵ tca⁴² xo³³,
 ɲo²¹ jō⁴² lu³¹ tshē⁵⁵ ka³¹ lũ⁵⁵ ɲy⁵⁵,
 tca³¹ xo⁵⁵ nu⁵⁵ ɲy⁵⁵ mo³³.

说啥爱你非生，
 我说爱你非真心，
 说说而一把你试，
 又何必当真。
 你说爱我也白讲，
 阿妹早有心上人，
 我把这话告诉你，
 是否讲合心。

[大意] 私はあなたをちょっと試しているだけです。本気にしなくともいいですよ。あなたがさっき言ったことは、断るための口実だったのですね。私にはすでに最愛の人がいます。私はあなたを軽蔑します。私は心の中を打ち明けました。あなたの言うことと私の言うこととはどちらが正しいでしょうか。

23 (男) lu³¹ tshē⁵⁵ sua⁴⁴ xo⁵⁵ ɲw⁵⁵ ji⁴² si⁴² no³³,
 ɲo³¹ li⁵⁵ ja³⁵ jō³³ no³¹ ja³⁵ jō,
 sē⁵⁵ no³³ xo⁵⁵ ɲw³³ na⁵⁵ kē⁴² kē⁴²,
 tu⁴² tã⁵⁵ no³¹ a³⁵ pio³³.
 ɕi³¹ xuã⁵⁵ ɲo³¹ tshã⁵⁵ ɲε³⁵ ma⁴⁴ tshã⁵⁵,
 ɕi³¹ xuã⁵⁵ a⁵⁵ ma³³ tshu³³ a⁵⁵ ma³³ thio⁴⁴,
 nu⁵⁵ ko³³ ɲo³¹ tshu³³ ɲε⁴⁴ tshε³¹ xo⁵⁵,
 ja³⁵ sũ⁴⁴ no³³ li⁵⁵ ɕu³³.

这句讲合我的心，
 你不爱我我爱别人，
 石宝山花开满坡，
 非是一朵开芳芬。
 喜欢对歌随处唱，
 喜欢跳舞随处跳，
 你哥我是爱采花，
 无人不知晓。

[大意] あなたが嫌なら私も構いません。歌会には恋人を求めにやって来る人たちがたくさんいます。もし、あなたが私を必要としないのであれば、私は別の場所で歌ってもいいですよ。

24 (女) lu³¹ tshē⁵⁵ sua⁴⁴ xo⁵⁵ ɲw⁵⁵ ji⁴⁴ lō³³,

这句说合我的心，

kō³³ thi³³ xo⁵⁵ li⁵⁵ tshɛ³¹ mo³¹ to³³,
 no³³ li⁵⁵ tshɛ³¹ xo⁵⁵ ɲo³¹ tshɛ³¹ xo⁵⁵,
 tɕā⁵⁵ tɕā⁵⁵ xo⁵⁵ mu⁵⁵ no³³.
 ɲu⁵⁵ ko³³ no³¹ li⁵⁵ ɲua⁴⁴ tshɛ³¹ xo⁵⁵,
 jō³³ thi³³ ɲo³¹ ā³³ ɲu⁵⁵ tɕa⁴² xo³³,
 ɲo³¹ jō⁴² lu³¹ tshɛ⁵⁵ ka³¹ nu⁵⁵ ɲv⁵⁵,
 tɕa³¹ xo⁵⁵ la⁴² mu⁵⁵ no³³.

哥妹采花各寻春，
 你也采花我采花，
 合意又合心。
 阿哥别处采花去，
 妹找伙伴另访亲，
 我把这话告诉你，
 讲合你的心。

[大意] それならば、あなたは別の場所へ行つて他の花を探つてもいいです。私だってあなたに限りませんから。私も他の友達を探しに行きます。あなたが本心を打ち明けてくれたから私の気持も決まりました。

25 (男) tshɛ⁵⁵ sua⁴⁴ tɕā³¹ xo⁵⁵ la⁴² mu⁵⁵ no³³,
 se⁵⁵ se⁵⁵ to⁴² li⁵⁵ ve⁴² tsui⁵⁵ mo³³,
 khuā⁵⁵ ɕi⁵⁵ no³¹ vɛ²¹ tshɛ³¹ xo⁵⁵ tsi⁵⁵,
 nu⁵⁵ no³³ a³¹ to³¹ jō³³.
 ɲo³¹ jō⁴² tsɛ⁵⁵ tō²¹ sua⁴⁴ nu⁵⁵ ɲv⁵⁵,
 lɛ⁵⁵ no³¹ thi³¹ ta⁴² ta³³ ɲu⁵⁵ no³³,
 jā⁵⁵ ko³³ ji²¹ mɛ⁵⁵ pe⁴⁴ sā⁵⁵ tɕi³¹,
 xɛ⁵⁵ no³³ tsha⁵⁵ tɕi³¹ no³³.

听说讲合我的心，
 寺大无佛白费心，
 你要重另去采花，
 谁人与你亲。
 我把真话告诉你，
 你呀只得把我跟，
 你我二人并排走，
 天差地万分。

[大意] どんな大きな寺院でも、中に仏様がいないければ何の意味もありません。あなたは別の場所へ行つて人を探すと云っていますが、恐らく相手は誰も居ませんよ。やっぱり私についてきたほうがいいですよ。

(注) 寺院と仏像…女性が歌会で他の良い相手を見つけないことができないことの比喩に用いている。ペー族は寺院や本主廟などで仏像や神像を崇拜している人々である。

26 (女) tshɛ⁵⁵ tso⁴² ɲa⁵⁵ no³³ a³⁵ to³¹ jō³³,
 ɲu⁵⁵ ko³³ no³³ tsi⁵⁵ ɲa⁵⁵ lɛ³¹ jō³³,
 ta³⁵ ta³³ xo⁵⁵ ja⁴² la⁵⁵ kɛ³¹ kɛ³¹,
 tsɛ⁴⁴ sui⁵⁵ no³¹ tshɛ³¹ pio³³.
 tɕi⁴⁴ sɛ⁵⁵ ɲu⁵⁵ ko³³ mā⁵⁵ ɲɛ⁴⁴ no³¹,
 jo³³ thi³³ ɲu⁵⁵ tɕa⁴² a³¹ ji³⁵ mo³³,
 ɲo³¹ jō⁴² lu³¹ tshɛ⁵⁵ ka³¹ nu⁵⁵ vɲ⁵⁵,
 tsu⁴⁴ tɕū³¹ nu⁵⁵ ɕi⁵⁵ no³³.

说啥无人与我亲，
 我就爱你把哥跟，
 虽然鲜花开遍地，
 在随采怎行。
 既然阿哥有人爱，
 阿妹无伴是独身，
 我把这话告诉你，
 紧紧记在心。

[大意] 私はずっとあなたに言い続けてきましたが、私もあなたのことが好きです。あなただって他の人を探しても恐らく愛する人は誰も見つからないでしょう。私の本音を打ち明けたから、心の中にしっかり刻み込んでください。

27 (男) mā⁵⁵ jō³³ lɛ⁵⁵ no³¹ kɛ⁵⁵ a⁵⁵ sɛ⁴²,

阿妹别怕莫担心，

tsa⁴² ji²¹ mo³³ tsi⁵⁵ ta³³ ɲu⁵⁵ sɛ⁴²,
 xa³¹ tɥ⁵⁵ tsu³³ nu⁵⁵ tshe⁵⁵ tshɥ³³ tu⁵⁵,
 ɲo³¹ tsō⁵⁵ nu⁵⁵ no³³ ji⁴⁴ kɛ⁴².
 tshā⁵⁵ li⁵⁵ tshu³³ tsi⁵⁵ ta³¹ xo³¹ tshā⁵⁵,
 ju⁴⁴ tshā⁵⁵ pē³³ li⁵⁵ ta³¹ xo³¹ ɲɛ²¹,
 ɲo³¹ jō⁴² tsē⁵⁵ tō²¹ ka³¹ lu⁵⁵ ɲɥ⁵⁵,
 ɲo³¹ tsō⁵⁵ nu⁵⁵ no³³ ji⁴⁴ kɛ⁴².

你若无伴把我跟,
 我家是你栖身处,
 身价百倍增。
 唱呀两人一同唱,
 吃饭两人也莫分,
 我把实话告诉你,
 身价百倍增。

[大意] あなたは恐れることも心配する必要ありません。適当な人が見つからない以上は、やはり私についてくるべきです。あなたが本心から私についてくると言ったからには、私も絶対その気持ちに応えるつもりです。私はあなたの価値を高めることができます。私は愛情のある人間ですから一緒に暮らせば幸せになれます。

28 (女) ɲo³¹ sua⁴⁴ nu⁵⁵ ɲɥ⁵⁵ jo⁵⁵ jo⁵⁵ ji⁴⁴,
 jā⁵⁵ tsu³³ kō³³ kŷ⁵⁵ sā⁵⁵ va⁴² ɕu³³,
 jā⁵⁵ tsu³³ kō³³ tā³¹ no³³ xo⁵⁵ ɣu⁴⁴,
 mi³³ ɲa⁵⁵ tua⁴² mu³³ sui³³.
 tɛ²¹ ɲɥ⁵⁵ xo⁵⁵ tsi⁵⁵ jō³³ mo³¹ tshe³¹,
 ɲu⁵⁵ ko³³ ɕā⁵⁵ xo⁵⁵ jō³³ mo³¹ mi³³,
 ɣu³³ ɕɛ⁴⁴ kuē²¹ si⁵⁵ na⁵⁵ kō³³ jī²¹,
 mē³¹ sē⁵⁵ nā⁵⁵ kō³³ thi³³.

说得合意又合心,
 江水汇拢难得分,
 我俩是两处开的花,
 会不会想念我?
 面前的花莫去采,
 阿哥野花别贪恋,
 说来说去你两个,
 还是一家亲。

[大意] 分かりました。あなたの言うことは嬉しく思います。でも私は、あなたが野花を探ろうとしているということを聞きました。そんなことをしてはいけません。やっぱり、私がいくら言っても、あなたとお姉さんとは似合いのカップルなのです。

(注) ここまで歌って女性(張福妹)はベンチから立ち上がり、逃げていった。

29 (男) ta⁴² ta⁴² nu⁵⁵ tua⁴² se³¹ jō³³ thi³³,
 kha⁴⁴ no³¹ suā⁵⁵ ɕui³¹ kha⁴⁴ ku⁵⁵ ɕui³³,
 jo³³ thi³³ no³¹ tsu³³ sē⁵⁵ jī²¹ jī²¹,
 piū⁵⁵ ɲɥ⁴² kē⁴² lo³¹ tsuē³³.
 tshā⁵⁵ ka³¹ tshē⁵⁵ tsi⁵⁵ no³¹ pe⁴⁴ tshu⁵⁵,
 ɲo³¹ lē³¹ thi⁵⁵ lō³¹ xā⁵⁵ lī³¹ ɕi³³,
 no³¹ ja³⁵ tshā⁵⁵ tsi⁵⁵ ɲo³¹ li⁵⁵ ja³⁵ tshā⁵⁵,
 kē⁵⁵ no³¹ li⁵⁵ ja³⁵ sē³³.

真话说给小妹听,
 想你好比天热渴冷水,
 你呀就是活神仙,
 难见你身影。
 唱着唱着你走掉,
 为你害羞难为情,
 你也不唱我不唱,
 怕你不知情。

[大意] あなたはどうして歌わないで逃げるのですか。あなたの代わりに私がきまりが悪
 いし、悲しいです。まあ、いいでしょう。あなたに歌う気がなければ私もこれでやめます。

(注) 男性は女性がいなくなった後でこの部分を歌っている。

(丁)